

【一】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。「」内の表現は、直前の語の意味を表します。なお、設問の都合上、本文を変更している部分があります。

だいが以前に、農学専門のある先生から^①興味深い話を聞いたことがある。その先生が留学していた頃、アメリカで人間の動物観を研究するというプロジェクトがあった。そのやり方は、例えば「一番美しい動物は何か」といったような質問を並べてアンケート調査を重ね、その答えが年齢、性別、職業、宗教、民族などどのように違うか調べるのだという。

このことを聞いて、それは面白そうだから日本でも同じような調査をしようという話になった。うまく行けば日米比較文化論になるかもしれない。というわけでさっそく試みたのだが、これがどうもうまく行かない。アメリカでなら「一番美しい動物は」ときけば、すぐ「馬」とか「ライオン」とか、何か答えが返って来る。ところが同じ質問を日本人にすると、「さあ、何だろうな」とはなはだ^②切れが悪い。そこを無理に、何でも一番美しいと思うものを挙げてほしいと言うと、「そうだなあ、夕焼けの空に小鳥たちがばあっと飛び立っているところかな」といったような答えになる。「これでは比較は無理だから、結局諦めました」とその先生は苦笑していた。

私がこの話を聞いて興味深いと思ったのは、それが動物観の差異以上に、日本人とアメリカ人の美意識の違いをよく示すものと思われたからである。

アメリカも含めて、西欧世界においては、古代ギリシャ以来、「美」はある明確な秩序を持ったもののなかに表現されるという考え方が強い。その秩序とは、左右相称性であったり、部分と全体との比例関係であったり、あるいは基本的な幾何学形態との類縁性など、内容はさまざまであるが、いずれにしても客観的な原理に基づく秩序が美を生み出すという点においては一貫している。逆に言えば、そのような原理に基づいて作品を制作すれば、それは「美」を表現したものとなる。

典型的な例は、現在でもしばしば話題となる八頭身の美学であろう。人間の頭部と身長が一对八の比例関係にあるとき最も美しいという考え方は、紀元前四世紀のギリシャにおいて成立した美の原理である。ギリシャ人たちは、このような原理を「カノン（規準）」と呼んだ。「カノン」の中身は場合によっては変わり得る。現に紀元前五世紀においては、優美な八頭身よりも莊重な七頭身が規準とされた。だが七頭身にせよ八頭身にせよ、何かある原理が美を生み出すという思想は変わらない。ギリシャ彫刻の持つ魅力は、この美学に^A由来するところが大きいの。

もっとも、この時期の彫刻作品はほとんど失われてしまっており残っていない。残されたのは大部分ローマ時代のコピーである。しかししばしば不完全なそれらの模刻作品

「面白いこと」のものではなく、うつろいやすいもの、はかないものという感覚を育てて来た。うつろいやすいものであるがゆえに、いっそう貴重で、いっそう愛すべきものという感覚である。日本人が、春の花見、秋の月見などの季節ごとの美の鑑賞を、年中行事として特に好んで今でも繰り返しているのも、^⑨そのためであろう。

実際、清少納言が的確に見抜いたように、日本人にとっての美とは、季節の移り変わりや時間の流れなど、自然の^B営みと密接に結びついている。そのことは江戸期に広く一般大衆のあいだで好まれた各地の名所絵を見てみればよくわかる。

名所絵とは、文字通りそれぞれの土地において見るべき場所、訪れる価値のある所を描き出したものだが、単なる場所ではない。例えば、広重の晩年の名作《名所江戸百景》を見てみると、雪晴れの日本橋とか、花の飛鳥山など、季節ごとの自然と一つになった情景が描き出されている。事実この連作シリーズは、まとまったかたちとしては、春夏秋冬の四部に分類されている。しかしそのように分類したのは広重ではない。広重は、江戸のなかの見るべき場所を、特に順序立てずに、いわば思いつくままにばらばらに描き出して行った。それが好評であったので、次々と続けて、百十八点まで描いたところで彼は世を去った。その後版元^{はんもと}（出版元）が、別の画家に追加分を一点と扉絵の制作を依頼し、あわせて計百二十点の「揃物^{そろもの}」として刊行したが、そのときに内容を四季に分類したのである。ということは、当初ばらばらに描いた「名所」が、いずれも季節の風物や年中行事と結びついていたので、自ずから分類が成り立ったということである。つまり名所そのものが、^Yのである。

かつての名所絵がそうであったように、今日でも人々は、旅をするとその記念や土産ものとして、土地の観光絵葉書を買求める。パリやローマに行くと、土産物屋の店先にさまざまな絵葉書が並んでいるが、そのほとんどは、ノートルダム大聖堂とか、凱旋門とか、エッフェル塔など、代表的なモニュメントをそのまま捉えたものである。だが日本の観光絵葉書を見てみると、満開の桜の下清水寺とか、雪に覆われた金閣寺など、季節の粧いをこらしたものが圧倒的に多い。もちろん、清水寺も金閣寺も、それ自体見事な建築だが、観光写真はそこに自然の変化を組み合わせることを好むのである。それもまた、「状況の美」を愛する日本人の美意識の表われであらうか。

（高階秀爾 著『日本人にとって美しさとは何か』より）

問1 太線部A「由来」・B「営（み）」の読みをひらがなで答えなさい。

を通して、かなりの程度まで原作の姿をうかがうことができるのは、美の原理である「カノン」がそこに実現されているからにはかならない。原理に基づいて制作されている以上、彫刻作品そのものがまさしく「美」を表わすものとなるのである。

【I】このような実体物として美を捉えようという考え方は、日本人の美意識のなかではそれほど大きな場所を占めているようにには思われない。日本人は、遠い昔から、何が美であるかということよりも、むしろどのような場合に美が生まれるかということにその感性を働かせて来たようである。それは「実体の美」に対して、「状況の美」^⑥とも呼んだらよいであらうか。

例えば、「古池や蛙飛びこむ水の音」という一句は、「古池」や「蛙」が美しいと言っているわけではなく、もちろん「水の音」が^④妙音だと主張しているのでもない。ただ古い池に蛙が飛びこんだその一瞬、そこに生じる緊張感を孕んだ深い静寂の世界に芭蕉はそれまでになく新しい美を見出した。そこには何の実体物もなく、あるのはただ状況だけなのである。

^⑤日本人のこのような美意識を最もよく示す例の一つは、「春は曙、やうやうしろくなりゆく山ぎはすこしあかりて……」という文章で知られる『X』「冒頭の段である。これは春夏秋冬それぞれの季節の最も美しい姿を鋭敏な感覚で捉えた、いわば模範的な「状況の美」の世界である。【II】春ならば夜明け、夏は夜、そして秋は夕暮というわけだが、その秋について、清少納言は次のように述べている。

秋は夕暮。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるがいとちひさく見ゆるは、いとをかし……。

これはまさしく「夕焼けの空に小鳥たちがばあっと飛び立っているところ」というあの現代人の美意識にそのままつながる感覚と言ってよいであろう。日本人の感性は、千年の時を隔ててもなお変わらずに生き続けている。

「実体の美」は、そのもの自体が美を表わしているのだから、状況がどう変わろうと、いつでも、どこでも「美」であり得る。^⑦『ミロのヴィーナス』は、紀元前一世紀にギリシャの植民地であった地中海のある島で造られたが、二世紀の今日、パリのルーヴル美術館に並べられていてもその美しさに変わりはない。仮に砂漠のなかにぽつんと置かれても、同じように「美」を主張するであらう。だが「状況の美」は、状況が変われば当然消えてしまう。春の曙や秋の夕暮れの美しさは、長くは続かない。状況の美に敏感に反応する日本人は、それゆえにまた、^⑧美とは万古不易（いつまでも変わ

問2 傍線部①「興味深い話」の内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 美しさに対する日本人と外国人の感性の違いについての話。
イ 日米比較文化の研究につながる新たな調査についての話。
ウ 日本人が最も美しいと感じる動物の種類についての話。
エ 性別や職業ごとに分かれる美しさの基準についての話。

問3 傍線部②「切れが悪い」は、「話し方や話す内容がはっきりしない様子」を表す慣用句です。空欄に入る適切な漢字一字を答えなさい。

問4 空欄【I】・【II】に入る最も適切な言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア すなわち イ さらに ウ だから エ また オ だが

問5 傍線部③「古池や蛙飛びこむ水の音」中の「蛙」の読みを発音通りにひらがなで答えなさい。

- 問6 傍線部④「妙音」の意味として最も近いものを次から選び、記号で答えなさい。
ア ひどくありきたりな音声 イ とても不思議な音声
ウ 非常にきれいな音声 エ かなり珍しい音声

問7 次は、傍線部⑤「日本人のこのような美意識」の内容を説明した文です。空欄【I】～【III】に入る適切な表現を、傍線部⑤以前の本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出し、答えなさい。

「日本人のこのような美意識」とは、【I】（十一字）【II】（十五字）【III】（十五字）という二つに感性を働かせ、【III】（二文字）【II】（二文字）の中に美を見出す意識のことを指している。

問8 空欄【X】に入る作品名として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 奥の細道 イ 源氏物語 ウ 徒然草 エ 枕草子

問9 傍線部⑥「模範的な」のここでの意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 典型的な イ 絶対的な ウ 理想的な エ 魅力的な

問10 次は、傍線部⑦「《ミロのヴィーナス》」について説明した文です。空欄に入る適切な表現を、傍線部⑦以前の本文中から十二字で抜き出し、答えなさい。

《ミロのヴィーナス》はギリシャ彫刻の一つであり、その魅力は「
から生じる美によってもたらされるものである。

問11 傍線部⑧「美とは万古不易のものではなく、うつろいやすいもの、はかないもの」とありますが、この見方とは対照的な見方が本文中に示されています。その部分を1ページ下段から二十五〜三十字以内で「
」という見方」に続く形で抜き出し、答えなさい。

「
」という見方。

問12 傍線部⑨「そのため」が指す内容の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本ならではの四季ごとの行事のあり方に、うつろいやはかなさを感じとるため。
イ 昔から変わらず続いているものを大切にしようとする精神が育まれているため。
ウ 四季折々の風情は、その時々にかかわらないことを深く理解しているため。
エ どの季節にも変わりなく感じられる自然の姿に強い愛着を持っているため。

問13 空欄 Y に入る最も適切な表現を次から選び、記号で答えなさい。

ア 江戸の人々の郷土愛や祭りへの情熱を生じさせて来た
イ 江戸の町と自然との結びつきによって生まれて来た
ウ 絵画に描かれることによって生じて生まれて来た
エ 人々の心に四季という季節感を生じさせて来た

もしぼくがダメだったら、途中で替えてください。それでいいです。

まあ、そこまで言うなら。と岡崎先生も折れるしかなかった。みんな、長野くんが委員長ということで、いいかな？

いいです。と川本くんが言った。そこで発言するあたりがリーダーだ。だったらまかせてみましょうよ、という感じ。リーダーのぼくはそれでいい、とみんなに知らしめる感じ。

じゃあ、委員長は長野くんということで。次に副委員長を決めます。

みつば東小の場合、クラス委員は二人。委員長と副委員長。委員長は男子で副委員長は女子と決められているわけではない。女子も委員長になれる。実際になることは、あまりないけど。

誰かが飯田さんを推薦してすんなり決定。そんな流れになると思ってた。ならなかった。飯田さん自身が、何と、わたしを推薦したのだ。島さんがいいと思います、と。別に悪気はなかったのだろう。わたしがよかったのではなく、誰でもよかったのだ。わたしは三年生のときに副委員長をやったことがある。飯田さんはそれを覚えてたのかもしれない。推薦する女子として、島愛里はちょうどよかったのだ。

それはまた、自分はやる気がないという、飯田さんの意思表示でもあった。わたしはかなり困った。飯田さんを推薦するわけにはいかない。それをしてしまうと、やり返した感じになる。A ケンアクな空気になる。

投票でわたしが飯田さんに勝つことはないだろう。そうなれば、副委員長はやらなくてすむ。でもあとがツライ。飯田さんに恨まれるかもしれない。今回推薦されたくらいだから、どうせ二学期も推薦されるだろう。そこでは副委員長をやらされるだろう。だったら、今ここで抵抗することに意味はない。

誰かが飯田さんを推薦してくれるのを、わたしは待った。飯田さんでなくてもいい。誰かが誰かを推薦してくれるのを待った。もう手は挙げがらなかった。挙げる必要はないのだ。挙げなければ、わたしに決まるのだし。

ほかに推薦者もいないようだから。と岡崎先生は言った。島さん、やってもらえる？ いやです。絶対にやりません。と強く断る自分を想像しながら、わたしは力なく言った。じゃあ、やります。

二学期にクラス委員をやると、短い三学期もこのままで、ということになりかねないので、やるなら一学期にやってしまったほうがいい。そう自分に言い聞かせて、わたしは五年一組の副委員長になった。

そして、後悔した。

長野くんは、思った以上にダメな委員長だった。副委員長のわたしから見れば、と

二 次の文章は、小野寺史宜作「梅雨明けヤジオ」の一節です。本文を読み、後の問いに答えなさい。「
」内の表現は、直前の語の意味を表します。なお、設問の都合上、本文を変更している部分があります。

小学五年生の「わたし」(島愛里)は、同じクラスの長野くんに誘われて高校野球の地方大会の観戦に来ています。二人の前の席には、大声で野次を飛ばす大学生ぐらいの男がいました。

もう夏休みだから、という長野くんの言葉が意外に利いた。ずっと学校に行っていないわたしに、夏休みは関係ない。ただ、ちょっとほっとしたことも事実。みんなが休み。わたしだけが行かないわけじゃない。自分一人が特別なことになってるわけじゃない。そうは思える。

みつ高(県立みつば高校の通称)が、また一点をとられた。またエラーでだ。ゴロを捕った人が一塁に投げた球が大きくそれた。三塁にいたランナーが、ホームベースのところにゆっくり戻ってきた。

前列の男の人が、例によって大声を上げる。

「おいおい、どこ投げてんだよ！ 味方の足を引っぱるなよ！ 打てないなら、せめて守れよ！」

言い方がどんどんキツくなっていく。本気で怒ってるみたいに聞こえる。

「そんなに勝てるわけねえよ！ 勝ってきた相手に申し訳ねえよ！」

長野くんが、わたしに小声で言う。

「ヤジオだね」

何のことかと思うが、すぐに気づく。野次男だ。ヤジばかり言ってるから、ヤジオ。つい笑う。

一列後ろでそんなあだ名をつけられたことも知らずに、ヤジオはなおも言う。

「やる気がねえならコールドで負けちゃえよ！ やる気があるなら見せろよ！ 頼むから、もつと勝つ気を見せろよ！」

うるさいなあ、と思う。やる気があるのに負けることもあるのだ。勝つ気を見せたとこでどうにもならないこともあるのだ。

へ 中略1 この春クラス替えがあり、一学期の初日に長野くんが転校してきました。男子のリーダーは川本くんで、女子のリーダーは飯田さんという雰囲気の中、長野くんはクラス委員長に立候補し、皆を驚かせました。

いうことだ。岡崎先生から見れば、最高の委員長だったかもしれない。初めは不安を覚えてたはずの先生も、すぐに長野くんを信用した。学期途中での交替なんて、考えもしなかったにちがいない。

長野くんは熱心だった。あまりにも熱心すぎた。岡崎先生の指示をクラスみんなに忠実に伝え、守らせた。

例えば先生が職員室で長野くんに、静かに自習させなさい、と言う。すると長野くんが教室でみんなに、静かに自習してください、と言う。そして一言もしやべらせない。例えば先生が長野くんに、掃除をサボらせないようにしなさい、と言う。すると長野くんがみんなに、掃除は絶対にサボらないでください、と言う。そして一人もサボらせない。そんな感じ。

長野くんは、副委員長のわたしにもそうすることを求めた。男子はおれが見るから、女子は島さんが見てよ、と言った。またそんなことを、みんなの前で言うのだ。よく言えば、裏表がない。悪く言えば、気が利かない。みんなは、気が利かない、をとった。あいつ何なの？ になった。島も何なの？ になった。

委員長が川本くんだったらなあ、とわたしは何度思ったことだろう。川本くんなら、同じことをもつとやまくやってたはずだ。岡崎先生からの指示も聞いて。最低限のことだけをみんなに伝えて。先生には、みんなが言うことを聞いてくれなくて、と軽めに言って。みんなには、おれが先生に怒られちゃうからさ、と軽めに言って。そういうのを、本当に軽やかにやって。でも陰では舌を出して。

長野くんは、そんなふうにならないうちに立ちまわることができなかった。はつきりと先生の側に立つのが委員長だと、そう思いこんでるみたいだった。

③ 長野ウゼー、島ウゼー、という声があちこちから聞こえてくるのに時間はかからなかった。みんな、その言葉を隠さなくなった。男子だけでなく、女子までもが言うようになった。長野くんは知らん顔をしてた。まちがったことはしてないんだから気にすることないよ、とわたしには言った。それもまた、みんなの前で言うのだ。勘弁してほしかった。

上には岡崎先生と長野くん、下にはクラスみんな。わたしは完全に I になった。そうとらえてるのはわたしだけ、というところがまたツラかった。長野くんはわたしを女子をまとめられないことを不満に思ってるはずで、クラスのみんなはわたしを長野派と見るはずだった。そして岡崎先生は。どうせ何も見えてない。

わたしは見事にきらわれた。幼稚園のころからずっと、みんなにきらわれないようにしてきたつもりなのに、あっけなくきらわれた。巻きこまれてそうなることもある。自分の力ではどうにもならないこともある。そのことがショックだった。

「よしっ！ ナイスピッチ、酒井！」と前列でヤジオが声を上げる。
ピッチャー酒井さんがバッターを三振させて、みつ高がピンチを切りぬけたのだ。
こちらのスタンドにいるみつ高生たちが同じく声を上げ、拍手をした。みつ高生だとわかるのは、制服を着てゐるからだ。

夏休みでも応援に行くときは制服を着るように、と言われてゐるのだろう。もしかしたら。先生がそう言ってるからみんな絶対に着ていけよ、と強く言うクラス委員がみつ高にもいるのかもしれない。

などとちよつといやなことを考えてたら。長野くんがいきなり言う。

「ごめん」

「ん？」

「おれが、何か、変な感じにしちゃって」

「変な感じ？」

「クラスを、というか、島さんを」

何も言えなかった。いいよ、と簡単に言ってしまうことではない。だからといって、ほんとにそうだよ、とも言えない。

たぶん、ほくのせいです、と長野くんと言われたときのわたしのお母さんもこんな気持ちだったのかな、と思う。あのときも、いきなりだったはずだ。長野くんはいきなり訪ねてきて、いきなり謝った。

でもお母さんは、長野くんを責めなかった。だから長野くんは、こうしてわたしを野球場に誘った。一度めでお母さんに責められてたら、この二度めはなかっただろう。

「ほんと、ごめん」

④ いいよ、別に」と言う。言ってしまう。「わたしが勝手に行かなくなっただけだし」でも原因をつくったのはおれだから

「いいって」

初めてこう考える。原因をつくったのは、長野くんだろうか。

確かに長野くんはやり過ぎた。⑤ がさつといえながさつだった。でも自分で言ったように、まちがったことはしてない。自習時間に静かにするのは当たり前のことだ。掃除をサボらないのも、当たり前のことだ。先生にじやなく、同じ児童に注意されるから腹が立つというだけの話。勝手なのは、腹を立てる側だ。タバコのポイ捨てを注意されて、うるせえ、とキレるようなもの。そう見ることもできる。

「何で、委員長をやるうと思つたの？」と尋ねてみる。

「うーん」長野くんは考え、答になってないことを言う。「おれ、前んところでは、長野じゃなかったんだよね。名字」

「じゃあ、何だったの？」

「コタニ。小さいに谷で、小谷。親が離婚したんだよ」

「うん。だから引越してきた。こっちが母ちゃんの地元だから」

地元。住めば地元。お母さんがみつばの出身なら、半分は地元だったわけだ。

「長野は母ちゃんの名。えーと、旧姓つてやつ。まだそうやって四ヵ月だからさ、慣れそうで慣れないよ。長野つて呼ばれても、すぐには気づけなかったりする。自分でも小谷つて言いそうになるし」

こんなこと訊いちゃいけないよなあ、と思いつつ、訊く。

「何で離婚しちゃったの？ お母さん」

「何でだろう。よくわかんない。隠してるわけじゃなくて、ほんとにわかんない。ほら、そういうことつて、あんまり話してくれないから。でもケンカはよくしてたよ、離婚する一年ぐらい前から」

お母さんが長野くんを引きとったのなら。悪かったのはお父さんなのだろう。

「でさ、こつちではもう乱暴なことはしないでつて、母ちゃんに言われたんだよ」

「してたの？ 乱暴なこと」

「乱暴なことをしてたつもりはないんだけど。ケンカとかはよくしてた」

「ケンカつて、口ゲンカとかじゃなくて？」

「殴り合いもしてたよ。前いた片見里つてところは、もろ田舎だからさ、そういうことがなくもなかったんだよ。まあ、だいたい殴り合つたらお互いすつきりするんだけど、なかにはすつきりしないやつもいて、そんなやつ親が学校にCモンクを言うんだ。で、おれの母ちゃんが謝りに行く」

「へえ」とだけ言う。
それは乱暴だよ、と言いつつになるが、言わない。

「こつちは全然ちがうなあ、と思つたよ。みんな、おとなしいよね」

「おとなしいかもしれないけど。いやな子もいるよ」

「それ思った。陰で何かされそうだなつて。片見里では、そういうことはなかったんだけど」そして長野くんは言う。「で、とにかくさ。もう高学年だし、おれ、母ちゃんのためにも、何ていうか、⑥ いいやつになろうと決めたんだよ」

「いいやつ？」

「うん。勉強の成績はよくないから優等生にはなれないけど、委員長にならなれるかもつて思つた」

「それで立候補？」

「そう。推薦されんのは無理だけど、立候補はできるんだから、なれるじゃん」

一言で言えば、単純。もう一言足せば。高学年なのに、単純。

「ただ、これまで委員長なんてやつたことないから、よくわかんなくてさ。とりあえず先生の言うことを守ればいだろうと思つたんだ。片見里では怒られてばっかいたけど、言うことを聞いとけば怒られないだろう、みんなにも言うことを聞かせれば絶対に怒られないだろうつて。そしたら、何か、変な感じに」

「なつたね」

「ほんとにわかんなくなったよ、どうすれば⑦ いいやつになれるのか。で、そんなら自分がやるべきだと思つてやるうつていうんで。島さんちに行つて、謝つた」

「ウチのお母さん、何て言つた？」

「来てくれてありがとうつて。こつちの親だから片見里以上にムチャクチャ言われるだろうと思つたけど、全然そんなことなくて。ちよつと驚いた。説明がヘタすぎてちゃんと伝わってないのかも思つて、もう一回言つたよ。ほくのせいですよつて。そしたら、そんなことないよつて言つてくれた。そんなことあるんだけど」

何だろう。何か、ほつとした。よかった、と思つた。そこで長野くんを責め、叱りつける親じゃなくてよかった。長野くんは、⑧ こつちのお母さん、だと思われなくてよかった。

で、こうも思う。そう思つてゐることは、わたし自身、長野くんは悪くないと思つてゐることなんじゃないの？

考える。前列のヤジオの背中を見つめて、考える。

空は曇つてるけど、そこは夏。暑い。ヤジオのTシャツにも、うつすらと汗がにじんでる。

へ 中略3 「わたし」と長野くんはヤジオに話しかけられ、次第に打ち解けていきました。ヤジオは元みつ高野球部員でした。へ

それからみつ高は、やつと反撃した。バッターとして登場した酒井さんが二塁打を放ち、一点を返したのだ。

ヤジオは立ち上がつて喜んだ。

「ナイス、酒井！ さすがエース！」

長野くんも立ち上がつて声を出す。

「続け、続け！」

みつ高は続かなかつた。次のバッターが三球で三振し、反撃はあつてなく終わった。でも一点は入った。爪あとは、II。

メガホンをパンパン叩いてたヤジオが、ズボンのポケットからスマホを取りだして耳に当てる。

「もしもし」「うん」「ああ。聞こえる？」「今、球場」「試合観てた、ウチの」「そう。ヤジオになつてた」

ん？

長野くんと顔を見合わせる。ヤジオ。さっきの話を聞かれてた？

「そうそう。いつもみたく、ヤジリまくり。一人なのに。ちよつとあぶないやつと思われてるかも」

セーフ。聞かれたわけではないらしい。

「そんなことより。どうした？」「生まれた？ マジで？」「やつたじゃん！ おめでとうー」「男だよな？」「今さら女つてことないか」「そうか。体は平気？」「ならよかった」「だろ？ 男は耐えられない痛みだつて言うもん。おれは絶対無理だわ。ビビリだし」「がんばつた。ほめるしかないよ」「とにかくよかった。おめでとう。今度会わしてよ、落ちついたら」「ゆつくり休みな」「じゃあ」

ヤジオが電話を切る。スマホをポケットに戻し、ふとこちらを見る。

「知り合いに子どもが生まれてさ。報告の電話」

「スゲえ」と長野くん。「いいなあ。夏休みの初日が誕生日」

「いや、微妙だよ」とヤジオ。「学校で祝ってもらえない」

その言葉が、微妙にチクリとくる。今のわたしや長野くんの誕生日は、たとえ学期中でも、誰からも祝ってもらえないだろう。

でも、まあ。

長野くんの誕生日をわたしが祝つてあげることくらいはできる。そしたら長野くんも、祝ってくれるかもしれない。充分か、それで。

「もう少し言っちゃうと。みつ高野球部のマネージャーだった子なんだよ。おれの代の。結構仲よくてさ。酒井が入つてきたあとも、出番がなくなつたおれをずっと励ましてくれたんだ。ほんと、いいやつだよ。というか、いい女子」

「生まれたよつて、教えてくれたんですか？」とわたしが尋ねる。

「うん。生まれたら教えてくれたんで、こつちから頼んだんだけど。生まれたのは三時間ぐらい前らしいよ。産んだあと、二時間は休まなきゃいけないかったみたいで」

でも、休んだあとすぐに電話をかけてくれたわけだ。高校で部が一緒だっただけの
人に。いや。だけの人でもないのかな。

同じことを考えたのか、長野くんがしれつと訊く。

「元カノジョとか、そういう人ですか？」

「ちがうちがう。そんなじゃないよ。ただの元マネージャーと元部員。おれだけ
じゃなく、ほかのやつらにも電話してるはず」

ヤジオと同一歳ということは、二十歳だろう。今二十歳なら、妊娠したのは十九歳
のときか。早い。わたしで言えば、あと八年後だ。

「いやあ、マジでよかったよ。あいつも子どもも無事だつていうから。ほんと、よかつ
た」

ヤジオはそのマネージャーのことが好きだったのかもな、と思う。今でも好きなの
かもな、とも思う。

その人は、本当にいいやつなのだろう。いい女子なのだろう。だからそこまで気に
かけてもらえるのだ。ちよつとوراやましい。高校の野球部員とマネージャーでそう
なら、例えば小学校の委員長と副委員長でそうなることもあるんだろうか。長野くん
とわたしがいずれそつなるようなことも、あるんだろうか。

まさかね。

⑦ 近くにある雲がゆつくりと動き、遠くにある雲とのすき間から陽が射す。すき間か
らだが、光は強い。

夏休みはまだ始まったばかり。あと四十日以上ある。

それだけあれば、気も変わるかもしれない。九月一日には、学校に出ていけるかも
しない。まだ出ていくと決めはしないけど。長野くんに言いもしないけど。

代わりにこんなことを言う。

「こつちでもケンカとか、すればいいのに」

「え？」

※「いいやつになるためのケンカなら、すればいいのに」

「ああ。うん。鳥さんがしろつて言うなら、するよ」そして長野くんは言う。「なんて
ね」

小五女子。野球は好きじゃない。

なのに野球場にいる。

来てよかったと思う。

ヤジオの名前くらいは、記念に聞いておこうと思う。

問6 傍線部④「『いいよ、別に』と言う。言ってしまう」について、「言う」を「言っ
てしまう」と言いかえていることから、「わたし」のどのような性格が読みとれま
すか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の本当の気持ちに反した言動を軽々しくとつてしまい、後になってから悔
やむような性格。

イ 自分の本当の気持ちを深く考えることなく、相手にペースを合わせてしまう流
されやすい性格。

ウ 相手とけんかをしてしても勝てそうにない時は、自分の本当の気持ちを表に出さな
いような性格。

エ 相手との関係が気まづくならないように、自分の本当の気持ちをついのみ込ん
でしまう性格。

問7 傍線部⑤「がさつ」のここでの意味として最も適切なものを次から選び、記号
で答えなさい。

ア けんかつ早く、力で相手に言うことをきかせたがる乱暴なさま。

イ ことばや動作が荒つぽく、細かいところまで気が回らないさま。

ウ 気が短く、相手のことを考えて行動できないという自己中心的なさま。

エ こだわりが強く、自分のやり方をつらぬくという融通の利かないさま。

問8 傍線部⑥「こつちのお母さん」とは、どのような母親のことですか。最も適切
なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の子どもが辛い目にあうと、その言い分だけを聞き、指導の仕方について
学校の先生に意見をjする母親。

イ 自分の子どもがトラブルを起こすと、その事実を隠そうとし、責任をすべて相
手に押しつけようとする母親。

ウ 自分の子どもがケンカをjすると、子ども同士で解決させようとせず、すぐに相
手の親に抗議をする母親。

エ 自分の子どもの立場を悪くする相手には、たとえそれが子どもであっても配慮
せず、厳しくとがめる母親。

問9 空欄Ⅱに入る最も適切な言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 残した イ 示した ウ 消した エ 隠した

問1 太線部A「ケンアク」・B「田舎」・C「モンク」について、カタカナは漢字に
直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問2 傍線部①「やる気があるのに（ ）こともあるのだ」とありますが、この時の「わ
たし」の心情として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 岡崎先生の指示をクラスのみんなに忠実に伝えようとしたのに、従ってくれず
悔しい思いをしている。

イ 母親の勢いに押され、来たくもなかった野球観戦に来ることになってしまった
とがっかりしている。

ウ 長野くんが委員長になるくらいなら自分が委員長になりたかったが、言い出せ
ず残念に思っている。

エ 自分の意志に反して副委員長をやらされた上、クラスメートからは嫌われて無
力さを感じている。

問3 傍線部②「でも陰では舌を出して」とはどういうことですか。その説明として
最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 周りには簡単にこなしているように見えても、実は苦勞をしているということ。

イ 一見堂々としているようでも、内心では照れくさい思いをしているということ。

ウ どちらにも表向きはいい顔をしながらも、心の中では軽視しているということ。

エ 冗談めかして言いつつも、本心では損な役回りに不満を持っているということ。

問4 傍線部③「長野ウゼー、鳥ウゼー、という声があちこちから聞こえてくる」と
ありますが、クラスメートがこのように反応した理由を「わたし」はどのように
考えましたか。最も適切な一文を（中略2）以降の本文中から抜き出し、始めの
七字を答えなさい。

問5 空欄Ⅰに入る最も適切な言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 有頂天（うちようてん） イ 一枚岩 ウ 板挟み（いたはさみ） エ 橋渡し

問10 傍線部⑦「近くにある雲がゆつくりと動き、遠くにある雲とのすき間から陽が
射す。すき間からだだが、光は強い」という描写の説明として適切なものを次から
二つ選び、記号で答えなさい。

ア 試合中に一人で野次を飛ばす様子から「あぶないやつ」と感じていたヤジオが
実は心優しい人物だとわかり、それまで抱いていた不安と警戒心がきれいになく
なったことを表している。

イ 理解しがたかった長野くんやヤジオの言動の真意を知り、信頼が深まるにつれ
て気持ちが少しずつ前向きになり、またいつか登校できる日が来るだろうと予感
していることを表している。

ウ 卒業しても元マネージャーにひそかな恋心を抱き続けるヤジオの姿を目にした
ことで、長野くんと自分との関係もこれから進展していくに違いないと確信して
いることを表している。

エ 球場で偶然に出会ったヤジオから楽観的な生き方を学んだことで、学校に行け
ないという現実をすっかり忘れ、まだまだ続く夏休みを思い切り楽しもうと思っ
ていることを表している。

オ 委員長に立候補した長野くんの思いやヤジオの高校時代の話を聞く中で、自分
と長野くんもこの先良い関係を築いていけるかもしれないという期待感を抱いて
いることを表している。

問11 次は、本文中に三箇所ある二重傍線部※「いいやつ」（5・6・7ページ）について
説明した文章です。空欄ア・イに入る適切な表現をそれぞれ指定の字数で考え、
文章を完成させなさい。

「いいやつ」を目指した長野くんは「ア（二十五字以内）」
ような人を「いいやつ」だと考えていた。しかし、その「いいやつ」は客観的に
見ると、先生にとって都合な人物に過ぎず、周囲との関係を壊してしまった。
その後、長野くんは、自分の内なる「イ（漢字二字）」に従って行動する人こ
そが「いいやつ」であると考えるようになった。

長野くんのこのような考えの変化を知ったことやヤジオとの会話を通して、「わ
たし」は自分の内なる「イ」に従って行動する「いいやつ」こそが、他人を
励まし、深い絆を結ぶことができる存在だと感じるようになった。

国語 解答用紙

得 点

[illegible]

	問 11		問 5	問 2	問 1	
イ	ア				A	
					ケン ア ク	
			問 6	問 3		
			問 7	問 4		B
						田 舎
			問 8			
			問 9		C	
					モン ク	
			問 10			